

牡丹 (Peony)

耻辱、耻かしがりを表はす。

ピオニイと言ふのはトロイ戦争にペオンと言ふ醫者が、神々の神から受けた傷を一種の草を以て醫したと言ふ昔話から來た名前だ。又一説によるとピオンと言ふ會長がこの草を發見したからだとも言ふ。

この草の實は惡魔の力を除けるおまじないとして珠數にして首にまいた事がある。

和漢でも牡丹、芍薬を薬として用ゐるが、毛唐の方でもバアヂルやオオビツドに書いてあるので見ると薬に用ゐたらしい。

支那人は牡丹を花王、芍薬を花相としてゐる。毛唐は花の王様の方も、總理大臣の方も兩方共ピオニイと言ふ、支那では牡丹は隋の煬帝の世に始めて傳はつたと言ふはなし。芍薬は古くからあつたらしい。牡丹の事をだから木芍薬と言ふ。芍薬の一番いゝのは揚州だ。芍薬は容が婣約と美しいから付けた名で、薬になるから薬の字を當てたのだ。

芍薬は支那では別れの時に贈る花となつてゐるので將離花とも言

ふ。

異名はえびす草、えびすぐすり、貌好草、ぬみぐすり、牡丹は深見草、これは本當は藪柑子の事だつたのを、藪柑子を牡丹と言ふものだから間違へちまつて、今では牡丹の異名になつてしまつた。富貴草、牡丹花富貴者也(周茂叔愛蓮記)。廿日草、花開花落二十日、一城之人皆如狂(白氏文集)。よろひ草、夜白草、開元遺事に、明皇沈香亭の前の牡丹、一枝二頭、朝は深碧、暮には深黄、夜は彩白にして香艶各異なり、帝曰、これ花木の妖なりと、楊國忠に賜ふ、百寶を以て欄とすと言ふ事がある。それから一般の異名になつた。名取草、

間男の名を取つた草だ。昔女がこの草を澤山植ゑて晝は一日ながめ、夜は風に損ふと大變だと思配して、そはそはとばかりしてゐたので、男が間男でもあると思つて捨てた。その中によく解つて見るとそんな邪のない話なので、又もとの様に可愛がつたと藻鹽草にある。牡丹古くはぼうたんど言つた。牡丹は王様だと言ふが、錢魯公は中でも黄色が王様で、牡丹色が妃だと定めてゐる。



不公平を表はす。

忽布

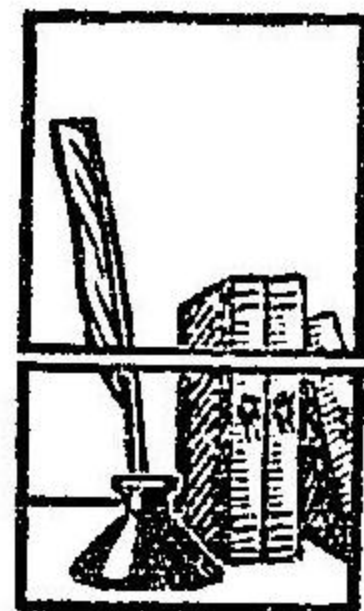
(Hop)

Hope と Hop の洒麗で希望を表はすこともある。

戲談で、ロビン、ホップなど言ふ。ロビン何何とはよく英人が草や禽獸に敬意を拂つてでもあるまいが言ふ所だ。ロバートを親んでロビンと言ふのだ。

忽布の様に繁くと言ふと非常に澤山なこと、非常に雑んでることを表はす言葉だ、英國で。

唐花草と言ふ日本種の草は忽布の代用になる。だれたツたか忘れたが、忽布の代用として麥酒の醸造に用ツて見たが失敗だツた相だ。しかし煎餅の中に此唐花草の雄花を刻んで入れると、香氣があつて、煎餅もかたくなツてうまい。



松 (Pine)

憐憫の意を持つてゐる。

希臘でイヌモス競技の賞品は中頃以後は松だつた(常春藤條下参照) コリントの大泥棒シニス人は人を殺すのに二本の松を地面まで曲げて置いて、兩方の樹へ頭と足を結び付けといて、松のはね返る拍子に人が二つに裂ける様にして殺したものだ相だ。それでこの男の仇名を、松曲げと言ふ。

加賀の松任にも昔こんな男がゐて、悪い事をして捕手につかまり

かけた時、松の樹を曲げて腰かけてゐて、捕手の来た時、今お繩を大人しく頂戴しみます故に一寸一服さして下されやと言つて、捕手にも腰かけさして置いて不意に立ち上つたから捕手は遠くの方へはね飛ばされてしまつたと言ふ話がある。

和漢では、松は霜雪を経て色を變へぬと言ふので、貞心に比へて貞木と言ふ。

松の葉を細かに刻んで毎朝朝食前に酒と一所に服してゐると、漸次と身體が軽くなつて来て、年を取らなくなり、飯を食はずに生きてゐられる様になると仙人の法にある。

花魁を松の位と言ふのは、花魁の事を太夫と言ふからだ。起りは秦の始皇帝が泰山に上った時、風雨が暴に來たので始皇帝周章で松の下に逃げ込んだ。その時のお禮に其松に太夫の位を遣った故事から來たのだ。花魁を太夫と言ふのは白拍子などが宮中に召されるとき五位に准じて太夫としたのから起ったのだ。

又日本で三位をも松の位と言ふ。

日本で高砂の松は長齡のあやかりものとなつてゐる。婚禮に島臺へかざり、お銚子に附け、羽盛に附け、正月には門へかざり、お供餅の上へのせるのはかはらぬ印だ相だ。

相生の松、連理の松は夫婦和合の印となる。

松の言の葉は和歌の異名、松の葉は仙人の境涯、又寸志。

松の花は十返の花と言つて千年に一遍咲くとも百年に一遍咲くとも言ふ。うそだ。

松はよく待つと言ふ意味に代用する。「紺の前垂松葉を散らし、待つに來んとはつらいぞへ」

肥ツた背の高い女が子供を背ツたりしてゐると松の樹に蟬といふ。



水柏

(Buckbean)

静穩な休息を意味する。

水柏はまた三柏と言ふ。英語の名は水豆 (Bogbean) の訛つたものだ

と言ふ。又水半夏とも言ふ。

獨逸語では熱病瓜草と言ふ。この草の葉が熱病の薬になるからさ
う言ふのだ。



木蘭

(Magnolia)

自然に對する愛を表はす。

マグノリア (Magnolia) と言ふのは、佛蘭西人、モンペリエエの藥學
教授ピエエル、マアニヨル (Magnol) の紀念のために附けた名だ。

併し毛唐の花は、日本で言ふ辛夷、紫蘭と言ふ奴だ。日本の様に
大木にはならない。

木蘭の花は天婦羅にすると食へる。古くはもぐらにと言ッてゐる。



樅

(四)

時を意味する。樅の立木は高上を意味する。チルス山チルス山の樅の實は酒の神酒の神バックスの章として用ゐられる。それは希臘人が新酒をつくるとその中に樅の木の汁を注ぎ込んで悪くならない様にする所から起つたのだ。日本では杉を酒桶にして、新酒が出来ると杉の葉でこさへた球を軒に吊す。年の暮の寒い田舎の街にいゝ香が満ちる。樅はアチスが自殺しやうとする時、キベレの爲めに木に變へらて樅となつたのが起りだ。

桃

(Peach)

實はお氣立と言ひ御容貌と言ひ貴方位の方はござりませぬと言ふ意。花は私はもう貴方の捕虜同前です。桃と言ふ奴は支那では、西方の木で五行の精で仙木だから邪氣悪鬼を拂ふと言つてゐる。だから門の所へ桃の符をうちつけたり、家を建てる前に地面へ桃の棒杭を打込んだりして邪氣悪靈を拂ふ。伊弉諾尊が黄泉國から逃げて來る時黄泉比良阪で桃の實を三つ取つて火勢女を撃つた所が悪卒が皆去つたので、桃を稜威神富命と附

けたと言ふ話が故事記にある。
 此木は助平な木で、植ゑる時若い女が化粧して植ゑると花も美しく實もよくなる相だ。
 西王母の桃、桃太郎の話は人口に膾炙してゐる。桃顔柳眉、花の顔月の眉は古い古い。
 風俗通に、東海の度朔山に桃があつて、枝が蔓ること三千里、その卑い枝が東北に向いてゐる。これを鬼門と言ふ。神茶、鬱壘と言ふ二人の神が其所に住んでゐて、鬼が來ると引捕へて虎に食はせてゐる。その真似をして鬼除に桃板を門戸の上のうちつけるのだと書いてある。

檉寄生柳 (Mistletoe)

我は困難に打勝つと言ふ意味を表はす。

Mistletoeと言ふのは、「糞の木」と言ふ意味で、鳥の糞から生えるからさう言ふのだ。

沙翁が「忌はしき檉寄生」と言つてゐるは、スカンヂナピアの神話から來たので、其話は、天神で光明、善、晝を司つてゐるバルデルが、地神で暗黒、悪、夜を司つてゐるロキにだまされた軍神へエデルと言ふ盲目の神に、檉寄生の矢で射殺されたから、忌はしきと言つた

のである。併し次の日に此神は生きかへつたので今も相變らず晝夜が交代し善悪が争闘してゐるのだが、榊寄生は其後斯んな悪い事の用に供せられぬ様、ロキ神の領地たる地面に觸れない所に生える様になつた。それで最早凶木でないと云ふ事に、戀人にその木の下で平和と戀の接吻を與へると言ふのだ。

榊寄生は基斯降誕祭には必ず飾る木だ。

此木を煎じて服むと石女でも屹度孕む相だ。其外魔除けにもなるから、始終服んでるといふ。

柳 (Willow)

水楊は自由、榊柳は吊意を表はす。

柳は吊意を表はすので、花嫁、戀人などの死んだ時には柳の環を冠る。必しも榊柳に限らない様である。又猶太人がバビロンに捕はれてゐた時立琴を柳に掛けて置いたと言ふ話もある。

又捨てられた章に柳の冠を用ゐる。

クリケットの棒の事を柳と言ふ事がある。

日本で風に柳なぞ言へば、人の意にさからはず、受けて流すこと

を言ふ。「柳柳で世を面白く受けて暮すが命の薬。」
檉柳は雨が降る前になると、そよいて之を人に知らすし、冬は霜や雪を負うて凋まない所から木の聖なる者として檉と言ふ字を書くのだと支那人が故事る。

日本では昔から遊廓の入口には見返り柳と言ふ奴を植ゑる。後朝にあすこで見返ると言ふのだらうが、小野道風などと悪く洒麗る奴があるから、仕方がない。

三十三間堂の棟木になつた柳は切られない前に女となつて人間の子まで擧げた。

アイヌ人の信ずる所に由ると、神は人間を造つた時柳の木で背骨を造つたので、人間の生命は背骨の中にあると言ふのである。それで病人が出来たり、子供が生れたりすると、柳の頭を削つて御幣を作つて家の横手に立てる。若しこの御幣に根が付くと、病人や子供は長生すると言ふのである。

「しだらやなぎ」
檉柳が始終うつむいてばかりゐるのは、基斯に茨の冠をかぶせた時、柳の鞭でたゞいたから悲しみと恥とで上が向けないのだ相だ。併し舊譯聖書を見ると小川の柳と言へば繁榮のシンボルになつてゐる位だ。

百合 (Lily)

白百合は純潔、快さを、黄百合は虚偽、派手やかをあらはす。
 日本の百合は世界で一番多く種類もあるし、美しくもある。日本
 では姫百合は美しい少女を表はし、一般に美人の姿の理想は、立
 ば芍薬、座れば牡丹、歩む姿は百合の花としてある。これに反して
 立てば曳白、座れば茶臼、歩む姿は大道白では困る。稚兒百合は姫
 百合の一種で小格な奴だが、これは美少年にたとへる。
 此百合と言ふ奴は、エバが樂園を追はれる時メソメソ泣いた涙の

地面に落ちてこさへた痕痘から生え出したものだ相だ。
 百合はよく純潔をあらはす。天使ガブリエルが聖母の前にあらは
 れて基斯を孕んだ事を知らず繪にはよく、マリアの前に百合の挿
 た瓶があつて、天使ガブリエルがその前に立ッてこれも百合の枝を
 持ッてゐる様に描いてある。
 マリアの夫ヨセフもよく百合の枝を持ッてる。細君は純潔清淨だ
 と言ふ看板だ。
 百合は佛蘭西の國花だ。その起りは斯うだ。初めクロオビス王の
 紋は二匹の蟾蛙の紋だツた。所がジョアイエアン・バアルの老仙人が

或晩不思議な光を其住居の洞穴で見た。天使が光の中から美しい盾を持つてあらはれて来て、これを王妃クロチルドに献上しろと言ふのだ。見ると盾の面は空色で、その上に星の様に輝く三個の百合の花がついてゐる。あゝ美しいなど思つてゐると、いつのまにかクロチルドが前に立つてゐた。早速献上に及ぶと、クロチルドはこれを王に與へたので、それからと言ふものは王は連戦連勝の勢だつたと言ふ話だ。

それで佛蘭西の王達を、「銀の百合の王」と言ふ。タツソオは佛蘭西を、黄金の百合と言つてゐる。又フキリツブルベル、查理八世、路

易十二世の時には佛蘭西は百合王國と言ひ、佛蘭西人は百合人と言はれた相だ。

フキイレントツエは百合の市と言はれる。

ランスロットに惚れたエレエンが死ぬ時の遺言によつて、白衣を着て船に乗せられて、右手に百合、左手に己が戀を告白した文を持つて川に浮んで行く話はテニスンのアイデル・オブ・ザ・キング中のエレエンの所にあるので誰も知つてゐるが、その話からこの女の事をアストラトの百合處女と言ふ。

獨逸に「ラウウエンブルグの夜の百合」と言ふ百合があつて面白い傳

説が附いてゐる。バルツの山家にアリスと言ふ鄙に稀な少女がゐた。或時布團に入れる木の葉を拾ひに森に行つた時ラウウエンブルグの公爵が馬に乗つてお通りだつたので、ちらと少女がお眼に止つた。それで奉公に來いと勧めたのを、少女は答へず、すぐさま家に歸つて一人ぼちの母親に相談した。所が母親は大事の大事の一人娘を御奉公には上げられぬと言ふので、アリスと一所に尼寺に隠れた。公爵はこれを聞いて無理無体にアリスを求めて城に連れて來させた。丁度夜半過に城へ着いたので、公爵は涙にむせんでゐるアリスを、大きな手で抱いて城へ連れ込もうとした。するとアリスは空氣の様

に軽く公爵の手を離れて、夢の様にニコニコと笑つて、さつと消えてしまつた。驚いて見るとアリスの立つた足跡には美しい百合が二本果敢なく咲き出でてゐた。これがラウウエンブルグの夜の百合の起りだと言ふ事だ。



林檎 (Apple)

實には誘惑の意味がある。花は撰擇、及び評判によると彼の人は偉い人で且善い人だと言ふ意味がある。

ニユウトンと林檎の話は偏く人が知ッてゐる。あの話はニユウトンの姪がボルテエルに話した話だ。

林檎は希臘の話によく出て来る、一番有名なのが、不和の林檎だ。この林檎は争ひの女神エリスがペレオスとテチスとの結婚式にこの神だけ招ばれなかつたので大に腹を立てて、酒酣なる時を待ッて金

の林檎を大勢ゐる真ん中へ窓から放り込んで遣ッた。宴席にゐた連中は驚いて見ると、何か字が書いたものが付いてゐる様だ。よく見ると、「一番の美人へ」とある。そこで愛の神のベヌスと神仲間の皇后陛下ジュノオと、平素物の解ッた智慧の神のミチルバ迄大人氣もな

く私へ贈ッて呉れたのでせう、私へでせうと争ひ出した。ジュノオの夫の陛下ジュビタアは、これは重大な事件であるから、世界第一の好男子パリスに判決を仰がなければ解らぬと言ふので、イダ山に

ゐる女神達が使としてトロイ迄聞きに遣ッた。するとジュノオは、私を美人だと言ッて呉れば權力と富貴をお禮にあげると言ふ。

ミネルバは名譽と戰場での功名をあげると言ふ。ベヌスは世界一の美人をお嫁さんに取持つと言つた。所がパリスはベヌスが一番だと言つた。そこでパリスはお禮として世界第一の美人で當時希臘のスパルタ王の妻と成つてゐるヘレンを取持たれて驅落した。スバルタ王メネラオス先生大に憤つて、それからトロイ戦争が初つたと言ふのだ。これから争の源を一般に不和の林檎と言ふ事になつた。

「ヒツポメネスの三つの林檎」と言ふ話がある。アトランタと言ふ美人が子供の時いましたらめられた事がある。男と結婚すると死ぬと言ふので一切男を避けて狩獵の様な荒々しい事ばかりしてゐた。そして

男が多数結婚を申込んで來るのでうるさがつて、私と驅つ競をして勝つた方の所へ行きますせう。けれども若しお負けなすつた方は死ぬ事に決めて戴きませうと言ひ出した。それにもかかはらず執心なヒツポメネスと言ふ男は競争を申込んだ。見ると美しい繪に描いた様な美男子だ。アトランタもどうかして競争をやめさせたいと思つたが皆がすゝめるし當人もきかないので仕方なく競争する事になつた。併しどう見ても可愛い、男なので、ひそかに林檎を三個渡して負け相だつたらこれをお投げなさい。私は其を拾つてますから、其間に何卒追越して下さいと言つた。その通りにして男は女を得た。けれ

ごもこの林檎のことに就て苦心してくれたベヌスの神にお禮をしな
かつたものだから、女の豫言されてゐた通り人間を廢止されてこの
美しい夫婦は男獅子女獅子にされてしまつた。

それから、ヘルクレスが十二の難題の最後の難題のヘスベリデス
の金の林檎を取つて來た話も有名だ。一身百頭の怪龍を殺して林檎
をエウリステオスに献上した話だ。

アダムとエバの林檎も有名だ。男の咽喉には瘤がある。これはア
ダムが神の來るのを見て周章てて林檎を咽喉に障へさしたからだ相
だ。だからあの瘤を「アダムの林檎」と言ふ。傳説によると今でも樂園

にある智慧の實には齒のあとの附いた實が成ると言ふ話だ。

イスタカアルの林檎と言ふ奴は、丁度半分が苦くツて、他の丁度
半分が甘いのだ相だ。人間と言ふ動物は此林檎を食つて顔をしかめ
てゐるのだ。

タキツスの歴史にあるが、死海の傍には見懸けの美しくツて、中
身は灰だらけな林檎があると言つてゐる。又同じ様な密柑も死海の
傍に出来る相だ。

○ スカンデナビアの神話では日の神のオオデンの子のブラギと言ふ
詩の神様の細君の神イヅンが不死の林檎を持ツてゐて、神神に食は

すから神は不死だと言ッてゐる。
 天神即善や光明を支配してゐる神が毎年十一月になると地神即悪
 や暗黒を支配してゐる神に負ける。悪神ロキは勝に乗じてイヅンを
 大人國へ捨てて、林檎の箱を盗む。來年の三月になると善神の方が
 勝つ。するとイヅンは燕になつて歸ッて來る。善神は勝に乗じて林
 檎を取返す。悪神の勝つてゐる中が冬で即スカンデナピアでは毎日
 毎日夜の時に、善神が勝つた時は夏、と言ッてもスカンデナピアの
 事だから丁度いゝ春の氣候の時だ。三月から十一月迄はイヅンが
 るから世界に林檎が成ると言ふ話した。

併しアダム、エバの話も、死海の林檎も今言ッた林檎も、菓物の
 代名詞に使ッてあるので、今林檎と言ふ奴を指したのではあまい。
 と思ふ。毛唐は菓物を林檎とか蜜柑とか言ッた。日本では桃とか橘
 とか言ッた。毛唐の方で小さい菓物は覆盆子と言ッた。日本も同じ
 事だ。

「歌を歌ふ林檎」と言ふ寶物がある。誰かに何かさせやうとするとこ
 いつの香を嗅がせれば可い相だ。何でも琥珀の木に紅玉の林檎が附
 いてゐるのだ相だ。こいつを持ッてる持主は神來の興が湧いて大詩
 人になれるし、香を嗅がせられた人は泣いたり笑ッたりするし、林

橋自身も惚惚する聲を出して歌ふと言ふ奴だ。此林橋はリビアの沙漠にあつて、三頭七足と言ふ怪龍が番をしてゐた。其をチエリイ皇子が、ガラスの甲を着て行つたので龍が澤山の龍が來るとおもつて自分の影のガラスに映るのに恐れて逃げて行つた後で、うまく取つた來た。

アアメツド皇子がサマルカンドで買つた林橋は何の病でも癒す力があつた。アラビアンナイトにある。

眼の中に入れるほど可愛い、事を、毛唐は眼の中の林橋だと言ふ。ジョン林橋と言ふ奴は又ジョン王林橋とも言ふ。聖約翰の日(五月

六日)に成熟する林橋だから、約翰の林橋と言ふので、それを洒麗てジョン王林橋と言ふのだ。此先生は三年も置ける相で、干涸びる時分でなくツちやうまくないと言ふ話だ。だから沙翁も日本なら梅干の様にと言ふ所へ、ジョン林橋の様にしなびてなごど使つてる。

日本の柏餅とは少しちがふが、あれを横からでなく足の方からシイツを折つて足を延ばせない様にこさいた寐床を、林橋バイの寐床といふ。

ちやんと片附いてるのを、林橋バイに片づいてゐるといふ。アルフワベットの訛つたのらしい。いろは順の様にと言ふ積だらう、請

合へないが。
先刻言ひ落したが、イヅンの林檎は食へばあとからどいどい出来
るから、盡さる心配はない。



月桂樹

(Laurel)

光榮。花の咲いてるのは不徳義の意がある。

希臘でピト(フヲオキス州)の競技がデルファイのお祭日にある。あ
の競技に勝った奴が貰ふのが月桂樹の冠だ。次手だから書いて置か
う。オリンピックのは橄欖。チメアのは荷蘭芹の冠。イスマスは干
た荷蘭芹、又は青い松葉の冠を呉れたものだ。

又月桂樹は詩や預言を傳へるものだから、詩人や巫女の冠にした
ものだ。又詩人が天來之興を得るには月桂樹を枕の下へ敷いて寐る

と可い相だ。富士の山から鷹が茄子をくはへて来る夢位はお茶の子
だ相だ。

それから月桂樹は雷避になる相だ。併しトオマス・ブラウン卿は御
苦勞にも馬鹿氣たまちがひと言ふ本の中に、ビュメレアトスの經驗
によるとそんな事は皆嘘だと御丁寧に實證をあげて斷つてゐる。

此頃はこの木は勝利と平和の章になつて來た。

河の神ベテウスの娘ダフチがアポロ神に惚れられて口説かれて困
り切つて、どうとう月神デアナに救けて呉れと頼んだ。月神は承知
して娘を月桂樹に變じた。追ッ驅けて來たアポロ神は茫然として驚

いてゐた。それでこの木は日の神アポロの大好きな木となつたと言
ふ話がある。

支那には月桂冠なんて字はない。支那で月桂といふと、月の中に
生えてる桂即肉桂の樹で、それから轉じて文官試験に及第すること
を折桂、折月桂などと言つたので、桂樹は毛唐の言ふ月桂樹とは、
同じく香樹だけれど異ふ樹なのだ。



勿忘草

(Forget-me-not)

眞の戀、私の事を忘れちや厭ですよなど言ふ意味がある花だ。
 勿忘草の名の起りは、昔相思の二人がドナウ河の邊をそよろある
 きしてゐる時、岸邊に紫の名しらぬ花が夕陽を浴びて咲きこぼれて
 ゐたのを見て、女が一枝ほしいと言つたのを男がきいてすぐさま岸
 を下りて行つて、水に洗はれやうとしてゐる紅と紫の花をとらうと
 して片手で草にすがり片手を延ばした時、草の根がふつりと切れ
 て水の底に巻きこまれてしまつた。巻き込まれながら、花を岸邊に

投げて、「私を………忘れないで………」と水にむせた聲ばかり、見え
 なくなつてしまつたので、それから此花を勿忘草と言ふのだ相だ。
 こんな甘ツたるい話を書いたら反吐が出たくなつて來た。
 ロングフエロオは星のことを、天人の勿忘草と言つてゐる。
 別名姫紫。



藁

(Straw)

草花は手ン手ンに純潔とか何とか言ふ者のしるしになつてゐるが藁ばかりは、最早處女ではないと言ふ印になる。あの女は藁を耳に挟んでゐると言ふと、姦通したがつてると言ふ事になる。昔馬を市に出すのは、馬の耳の間に藁を挟んで置く習慣があつたから、その馬みたいに見たりたがつてゐるツて事だ。

日本で鈍栗の丈競と言ふかはりに藁千本とも言ふ。

緒環

(Columbine)

馬鹿な事を表はす。紫は勝たうと決心した。赤は心配或は戦慄を表はす。

英語のコロンバインと言ふのは、英國の道化芝居に出る役で、ハアレキンと言ふ人目に觸れない悪戯者の色女で、矢ッ張人の眼に觸れないで、二人して世界中を飛んで歩く。ハアレキンは魔法の杖で以てあらゆるものの形をかへさせて人を驚かしてはよろこんでゐる。此コロンバインの持つてる盃とこの草の花と似てゐるから、此草を

コロンバインと言ふのだ。コロンビナは伊太利語で色女と言ふ事だ。日本で緒環と言ふのは、黄色な花の咲く、よく山にある、毛茛の種類の草の名だ。あの草は糸の様な黄色な蕊が白い花から垂つてゐる所から糸線草と言ひ、洒麗て緒環と言つたのだ。それによく葉が似てゐるから、ちつと葉も花も大きいけれど紫(日本種は紫だ)の花のやつも緒環と言つたのが、今では其方に名を奪はれてしまつた。紫の紅を奪ふぢやなくつて紫の黄を奪ふだ。

緒環と言つて枝葉のない枯木を指すことがある。「谷深み立つをだまきは我なれや思ふ心の朽ちて止みぬる」。



紫の毛茛



コロンバインと言ふのだ。コロンビナは伊太利語で色女と言ふ事だ。日本で緒環と言ふのは、黄色な花の咲く、よく山にある、毛茸の種類の草の名だ。あの草は糸の様な黄色な蕊が白い花から垂つてゐる所から糸線草と言ひ、洒麗て緒環と言つたのだ。それによく葉が似てゐるから、ちつと葉も花も大きいけれど紫(日本種は紫だ)の花のやつも緒環と言つたのが、今では其方に名を奪はれてしまつた。紫の紅を奪ふぢやなくつて紫の黄を奪ふだ。

緒環と言つて枝葉のない枯木を指すことがある。「谷深み立つをだまきは我なれや思ふ心の朽ちて止みぬる」。



紫の又書



花の歌

與謝野晶子

(1)

きぬぎぬや撫子なでこよりも美しくしきあざみの花はなに白しろき
露つゆおく

初夏はつちかの照てる日ひのもこの白柏しろがしほさびしけれごもこことち
よきかな

いご長ながき黒くろき塀へいあり中なかほごに無む花果けくわの木きのただ一ひと
 木き立たつ
 水みづにいり睡蓮すいれんの寝ねるごこくにも君きみがかづきしわが
 白しろぶすま
 うすものを着きる時とき君きみはしら花はなの一ひと重への罌粟けしご云いひ
 給たまふかな

わが庭にわの草くさの中なかより二尺にしやくほご出いでたる萱かやに風かぜ吹ふく
 夕ゆふ
 比叡ひゑの山やま高野かうやの御山のみやま僧そうたちの山やまをおもひぬ水すゐ仙せんの
 雪ゆき
 薔薇ばら咲さきぬかつて夢寐むびにも知しらざりし思おもひごさす
 人ひとのほごりに

外の木のあるにあらねど秋の風少し通へど白楊切る
 みよし野のさくら咲きけり帝王の上なきに似る春
 の花かな
 道芝のたくひか花かわが知らぬ雛菊ながら露置く
 はよし

春のくれ穀断したる弱法師戸に立つごとししら藤
 の花
 雨の日はわれを見にこず傘さして朝顔つめど葵を
 つめど
 からたちの卯月の花の白き日につれなき人をつぶ
 やくわれは

かきつばた白き國には王ゐます少女の國はむらさ
 きにして
 道ばたの石の地藏の好きたまふ鶏頭の花いたくみ
 にくき
 われ泣きて大き邸の黒門の傍の堇をつみてかへり
 し

なつかしき春のかたみかうつば草夏の花かや紫に
 して
 白鳥の羽をわれ敷き刺草を君が夜床に敷くもうら
 むな
 旅人は妻が閨戸の床にすむこほろぎ思ふみそ萩の
 花

風きたり山を吹く日は裾野原むらさめ降りて羊齒
の波うつ

ふるさとは松虫啼きぬ秋の晝眞葛の姫が領じます
家

初夏のあらせいごうに似し人をいご早くよりかた
らひてごる

かはせみの上り下りする丸形の石井にちりぬから
ももの花

濃き梅をよしご思はぬ人の子をこらへてまゐれ紅
衣の童

春の月浅みごりして常春藤はふ鎌倉河岸の氷庫か
な

夏草の中にまじりていちじろき雛罌粟に似るここ
 ろこなりぬ
 清らにも横笛ふきし口びるのくれなるに似る椿を
 ひろふ
 夏の雨君が小傘に粟の花二つはひしがおもかげに
 見ゆ

小雨ふる赤城平の百合の花なでしこまじりしやが
 まじり咲く
 うす紅の牡丹を見ればまぼろしによき音立つる玉
 のおん靴
 草に寝てひるがほ摘みて牧の子がほこごぎすさく
 みちのくの夏

山もこの夜明けに立ちぬ鳥かぶこいこけざやかに
江戸紫に

あかあかご五月雨晴したり隣家のたれやらがきて
紫陽花を切る

人ならずいつの世か着しむらさきのわが袖の香を
たてよたちばな

山吹の花の一つをからたちの垣根の上のせてこ
しかな

雪の山いくつ清らに並ぶごこましろの花の大でま
り咲く

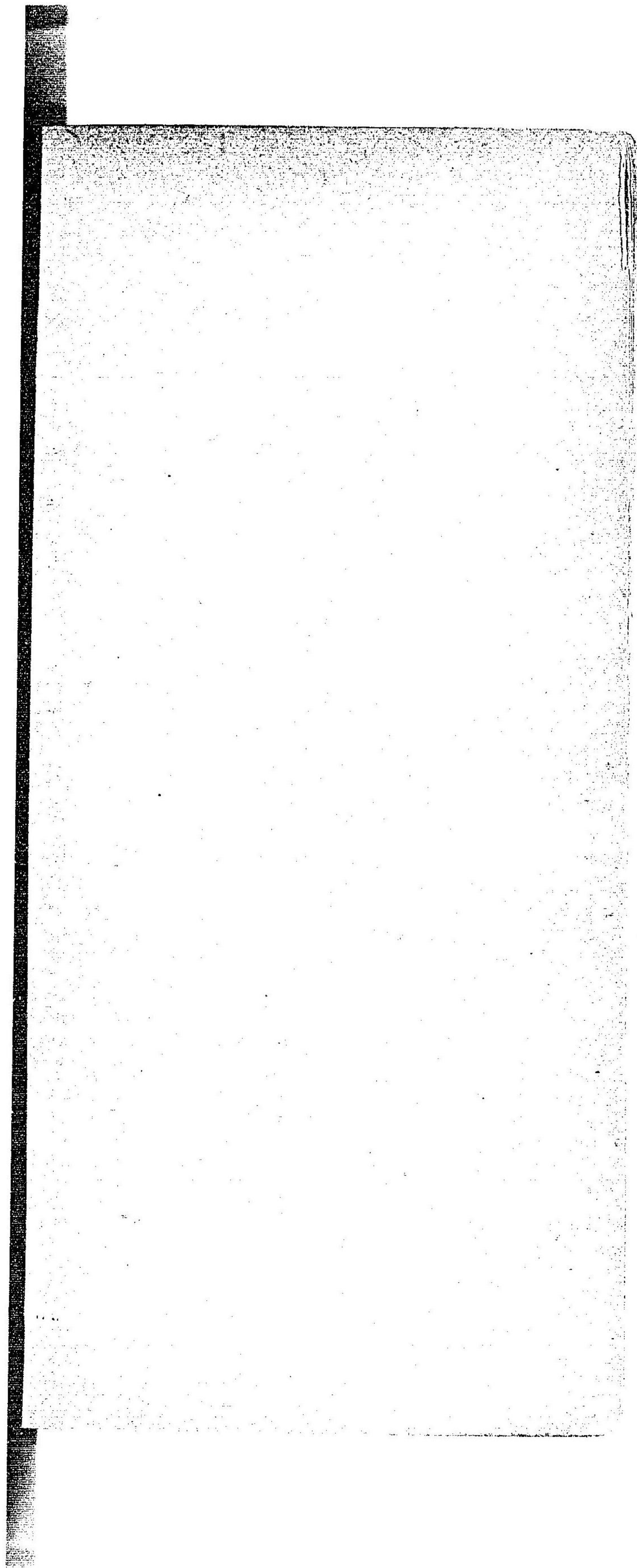
岩ぬれて花しのぶをばかけたればそのかたはらに
君を待つかな

合歡ねびの木きの感かんずるごこく男をとこみなしをれぬはなし人ひと
 妻つまてふに
 わが髪かみに赤あかき葉はおこすうるしの木き若わか葉はしぬらむ丘かみ
 をおもひぬ
 月見草つきみぐさ花はなのしをれし原はら行ゆけば日ひのなきがらを踏ふむ
 ここちする

神かみ無な月つきいろいろの菊きく花はなさけるなかに豆まめ食はむ黒くろの大おほ
 馬うま
 金蓮きんれん花はなすきみゆるさじ葉はにかくしあまたの君きみのう
 たたねするを
 夏なつの水蓮みづすず切きる船ふねの棹さしこりにやこひまつりし京みやうの君きみ
 かな

戀人の逢ふがみじかき夜となりぬ
 苗香の花たらば
 なの花
 水へだて鼠つばなの花なぐるこ
 こばかりしてあかさりしかな
 傘ふかうさして君行く遠方はう
 すむらさきにつつじ花咲く

鈴ふりにつかはしめたる童らの
 小床をつくる秋萩の花
 ふるさこの家のうしろの犬よも
 ぎ白き露おく夕を戀ひぬ
 秋の日の Dahlia の花の中を
 来て一こさあまりたたむきに寝し



英名索引

普通によく出る名が二つ以上あるやつは
両方共擧げて置いた。順は ABC。

Aconite (さりかぶさ)	113
Adonis (ふくじゆさう).....	152
Affodel (Narcissus を見よ)	
Almond (あめんどう)	10
Amaranth (Cockscomb を見よ)	
Amaryllis (Narcissus を見よ)	
Apple (りんご)	190
Apricoek (Apricot と同じ)	
Apricot (あんず)	9
Aspen (はこやなぎ)	121
Asphodel (Narcissus を見よ)	
Bay-tree (Laurel と同じ)	
Bird's-eye (Adonis と同じ)	
Blackthorn (すもも).....	88
BLOSSOM (はな).....	127
Bogbean (Buckbean に同じ)	
Boun-tree (Elder と同じ)	
Bour-tree (Elder と同じ)	
Buckbean (みづがしほ)	174
Buttercup (きんぽうげ)	41
Camellia (つばき)	103
Carnation (Pink を見よ)	

(2)

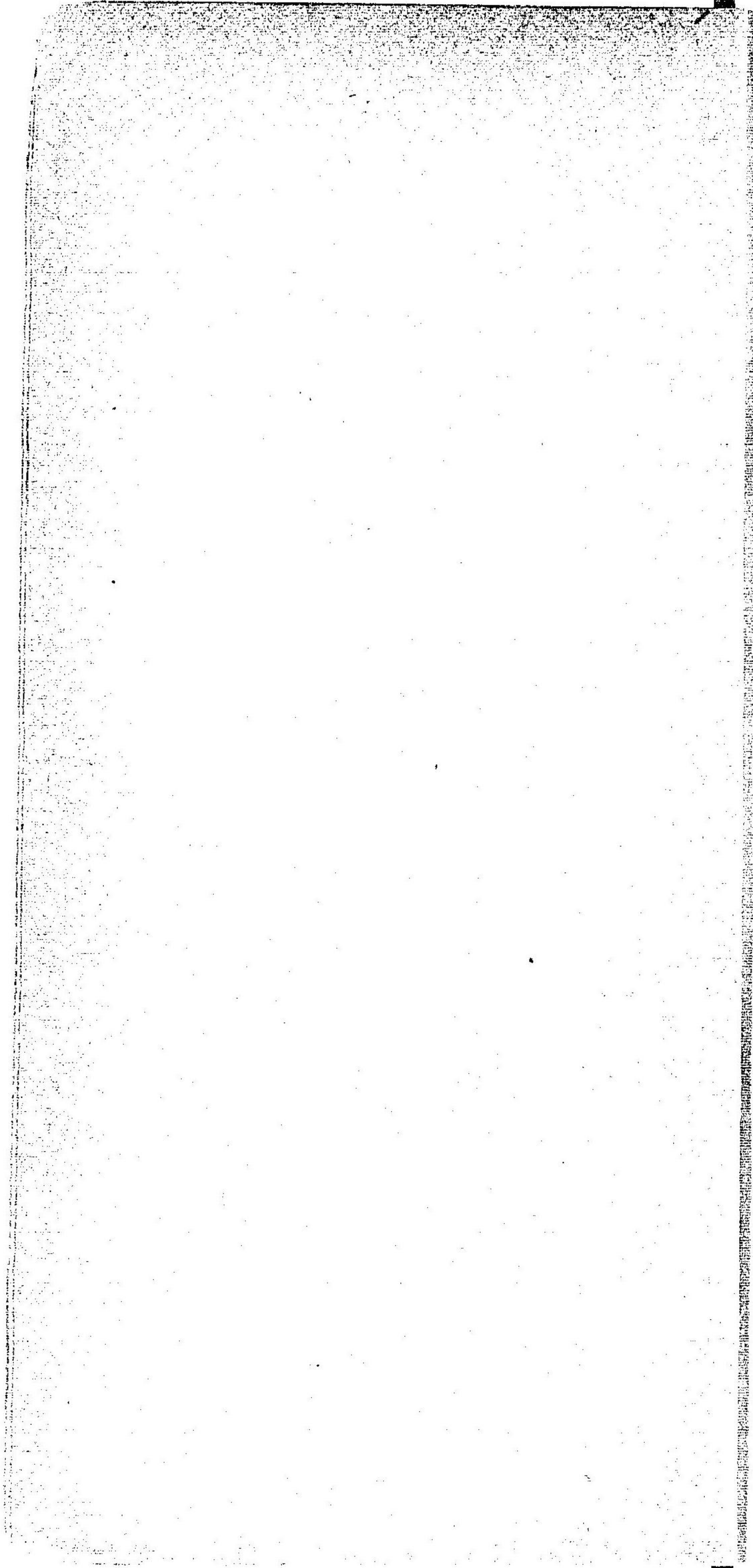
Cedar (すき)	80
Cherry-tree (さくら).....	58
Chestnut (くり).....	49
Chrysanthemum (きく) (Marigold は別にあ げた).....	31
Clover (おらんだげんげ).....	21
Cockscomb (けいさう).....	53
Columbine (なだまき).....	207
Crane's-bill (Geranium と同じ)	
Grow-flower (Buttercup と同じ)	
Crowfoot (Buttercup と同じ)	
Crow's foot (Buttercup と同じ)	
Daisy (ひなぎく)	148
Daffodil (Narcissus を見よ)	
Daffodilly (Narcissus を見よ)	
Daffodowndilly (Narcissus を見よ)	
Dandelion (たんぽぽ)	99
Dahlia (てんぢくぼたん).....	107
Day-lily (Narcissus を見よ)	
Digitalis (Foxglove と同じ)	
Ebone (Ebony と同じ)	
Ebony (こくたん).....	57
Elder (にはさこ)	117
Fern (した).....	65
Fig (いちじく)	12
Fir (もみ)	176
Flag-flower (Iris と同じ)	
Fleur-de-lis (Iris を見よ)	
FLOWER (Blossom を見よ)	
Forget-me-not (わすれなぐさ)	204

(3)

Foxglove (ちきたりす).....	101
Foxtail grass (すすめのてつぼう).....	82
Gelder-rose (Guelder-rose と同じ)	
Geranium (げんのじょうこ)	55
Gilly-flower (あらせいさう)	11
Gooseberry (ぐすべり).....	47
Gourd (へうたん)	159
Grapes (Vine を見よ)	
Guelder-rose (おほてまり)	19
Heart's-ease (Pansy と同じ)	
Heliotrope (へりおそろふ)	162
Hemp (あさ)	1
Holly (ひひらぎ)	146
Hop (ほつぶ)	168
Hydrangea (あぢさゐ).....	7
Iris (しやうぶ)	69
Ivy (きづた)	34
Jacob's-ladder (はなしのぶ)	137
Judas-tree (せいやうすぼう)	95
Kiki (Gourd を見よ)	
King's-spear (Narcissus を見よ)	
Laurel (ろおれる).....	201
Lent-lily (Narcissus を見よ)	
Lily (ゆり).....	184
Lily of the valley (きみかげさう)	36
Lime-tree (Linden と同じ)	
Linden (しなのき).....	67
Lotus (はす)	122
Love-lies-bleeding (Cock's-comb を見よ)	
Magnolia (もくれん).....	

Mallow (ゼにあふひ)	96
Marigold (きんせんくわ).....	39
Mary-bud (Marigold さ同じ)	
Mint (はくか).....	119
Mistletoe (やどりき).....	179
Mulberry-tree (くは)	43
Mustard (からしな)	30
Myrtle (てんにんくわ).....	108
Myrtus (Myrtle さ同じ)	
Narcissus (すみせん).....	90
Nettle (いらぐさ)	13
Oak (かしは)	27
Olive (おりいぶ)	24
Orange (だいだい).....	97
Palm (しゆろ)	76
Pansy (げんじい)	138
Parsley (おらんだぜり)	23
Peach (もも)	177
Peasant's-eye (Adonis さ同じ)	
Peony (ぼたん)	164
Pine (まつ)	170
Pine-apple (げいなぶる)	118
Pink (なでしこ).....	115
Plum (うめ)	14
Potato (じゃがいも).....	73
Primrose (さくらさう).....	63
Raspberry (えぞいちご)	17
Reed (あし)	6
Rose (ばら).....	140
Rush (さうしんさう).....	111

St. John's wort (おさぎりさう).....	18
Snapdragon (きんぎよさう).....	38
Straw (わら)	206
Strawberry (おらんだいちご).....	20
Sunflower (ひまはり)	150
Thistle (あざみ)	4
Thorn-apple (てうせんあさがほ)	105
Tulip (ちゆうりつぷ)	102
Vine (ぶだう).....	154
Violet (すみれ) (Pansy は別にあげた)	83
Walnut (くるみ)	52
Water lily (すゐれん)	79
Willow (やなぎ) (Aspen は別にあげた)	181
Wistaria (Wisteria さ同じ)	
Wisteria (ふち).....	157
Witch-hazel (あつに)	8
Wolf's-bone (Aconite さ同じ)	



明治四十三年一月四日印
明治四十三年一月七日發

印刷行



不許複製

著者 江南文三
著者 與謝野晶子

發行者 五井政男

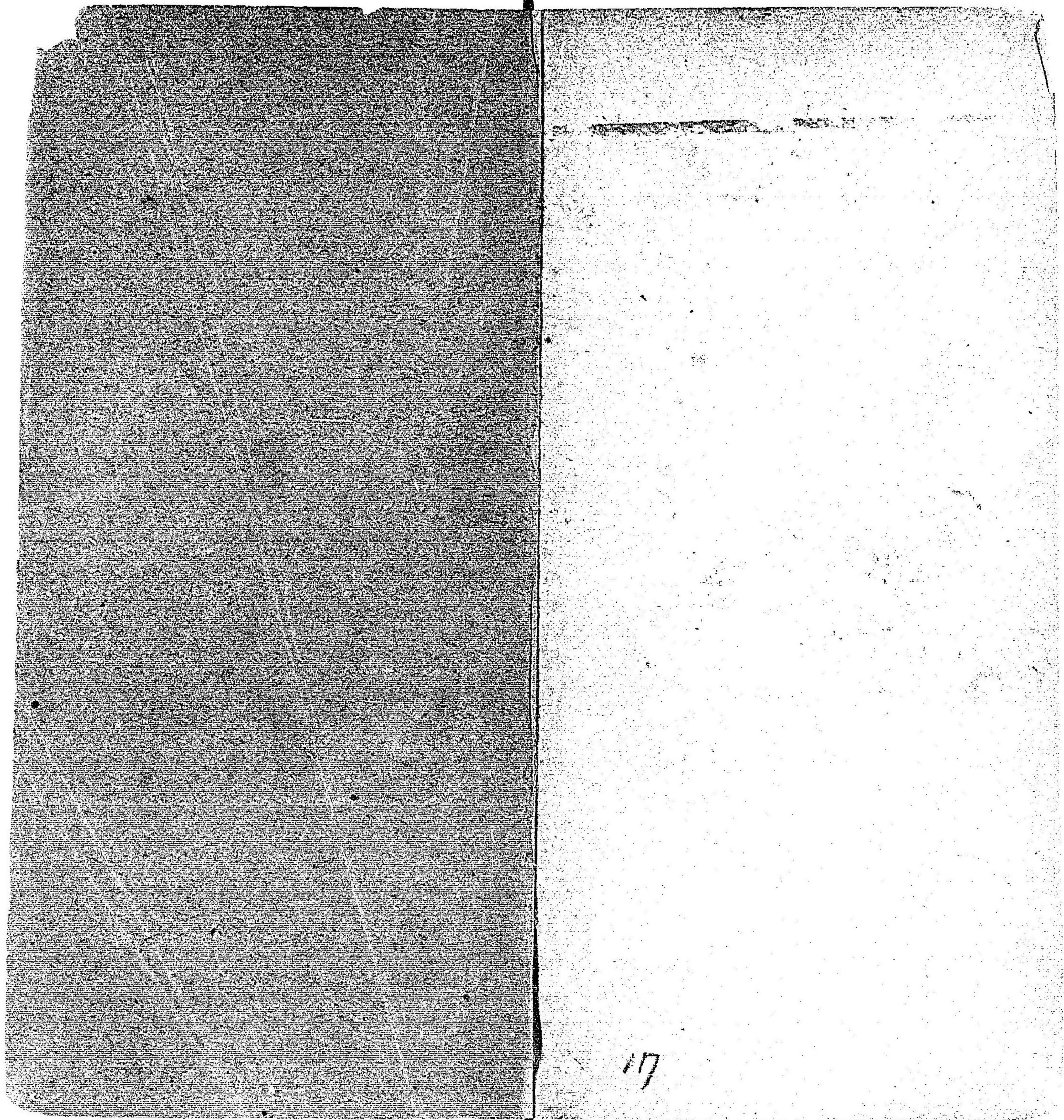
印刷所 中屋商店活版部

發行所 東京市神田區錦町九番地
發賣元 東京市日本橋區數寄屋町三丁目一丁目
發賣元 東京市神田區錦町一丁目
發賣元 振替口座東京三四〇九

誠文館出版部
六合館書店
二松堂書店

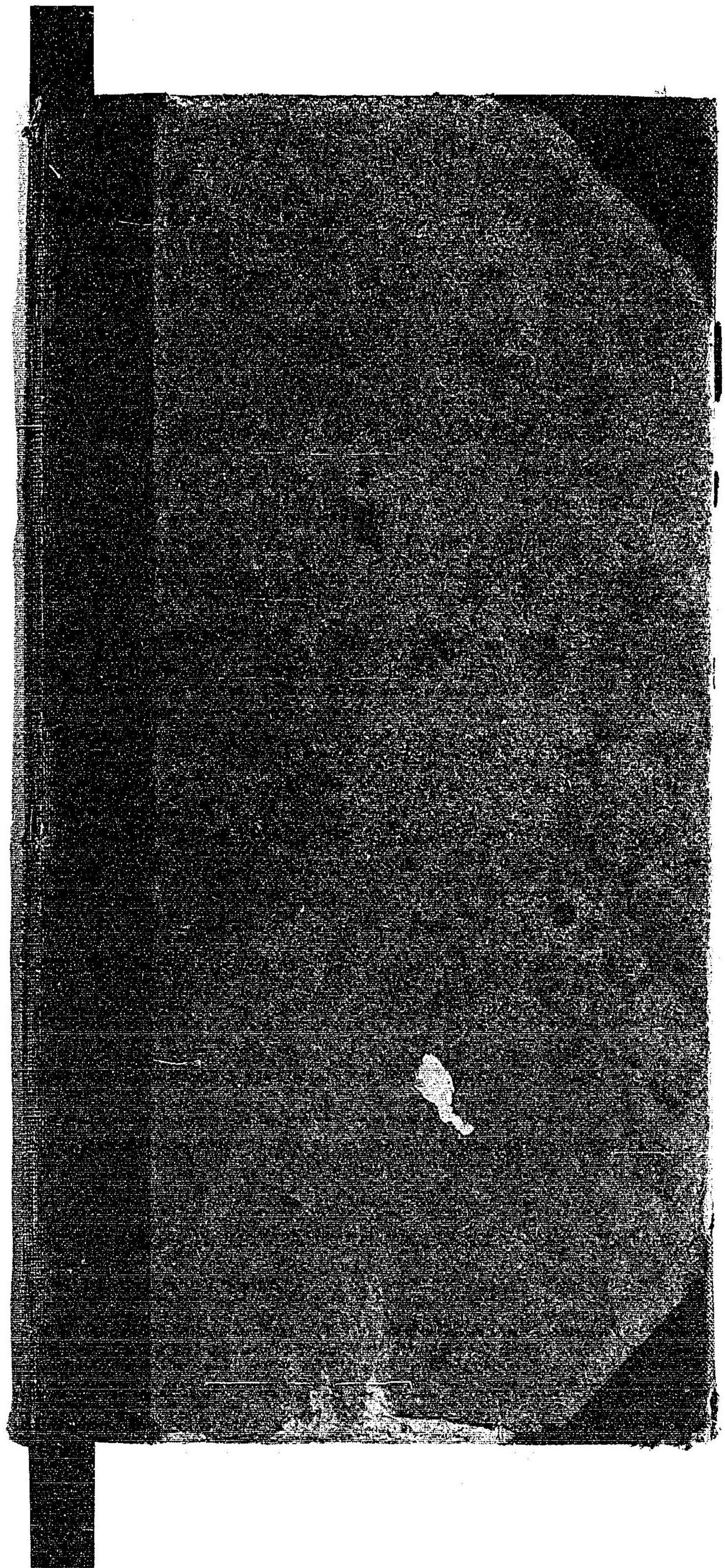
大賣捌店

- 東京市神田區表神保町 東京堂書店
- 同 神田區裏神保町 上田屋書店
- 同 日本橋區吳服町 北隆館書店
- 同 日本橋區大傳馬町 文林堂書店
- 同 日本橋區本石町 至誠堂書店
- 同 日本橋區本銀町 大洋堂書店
- 同 京橋區尾張町 東海堂書店
- 同 京橋區南傳馬町 目黒書店
- 同 松島三松堂、文星堂、柳原文盛堂
- 大阪市東區備後町 寶文館書店
- 同 東區南渡邊町 杉本書店
- 久留米市米屋町 菊竹書店
- 京都市佛光寺町 東枝律書房
- 名古屋市本町 川瀬佐助
- 同 宮 町 星野書店
- 外全國各地書籍雜誌店



17

72
400



72
400

204045-000-5

72-400

花

江南 文三

与謝野 晶子 / 著

M43

EDO-0288



